

安成通信 2019.2.11 持続可能性と未来可能性—哲学対話の試み



<春立ちぬ京（みやこ）の虹も暖かく> 哲風

寒い冬が急に和らいだ立春（2月4日）の一日、地球研で「未来可能性のための哲学」と称する小さなワークショップが開かれました。地球研は、「人と自然のあるべき姿—未来可能性」をミッションとして、多くの研究プロジェクトが進められてきましたが、そもそも「未来可能性」をどう考えるべきか、これまでもさまざまな議論がなされてきました。特に、西條辰義教授をプログラム・ディレクターのお一人として迎えてからは、西條さんたちが提唱されてきた「フューチャー・デザイン（以下、FD と略します）」^{1) 2)}の考え方と手法が「未来可能性」に関連して議論されています。

このワークショップの目的は、FD の取り組みを踏まえながら、そもそも「未来可能性」とは何か、哲学や倫理学の視点から探究しようということでした。主宰してくださった東大大学院の若い哲学研究者 M さんは、趣旨説明の中で、『哲学は「未来」に関して、古来様々な議論・思索を重ねてきました。未来は既に決定されているのか、そもそも存在すると言えるのか。「未だ存在しない」とすると、未来に対して、我々はどのような責任を負うのか。そもそも責任とは何に由来するのか。特に人類の技術が人類自身の存続を危うくすることが強く意識された 20 世紀後半以降、「世代間倫理」は倫理学の大きなトピックともなっています。こうした問題に関する哲学的議論を共有したい』と述べています。

地球の環境と社会の今後の議論で、よく出てくることばが「持続可能性(sustainability)」です。最近では、「持続可能な発展目標 (SDG s)」が国連で議決され、各国が 17 の目標について、それぞれの取り組みをすることになっています。持続可能性ということばが、最初に使われたのは、国連の「環境と開発に関する世界委員会」による 1987 年の報告（いわゆる「ブルントラント報告」）とされています。その中で、持続可能性を、「将来世代のニーズを損なうことなく現在の世代のニーズを満たすこと」と説明しています。

（産業革命以降の）地球温暖化を 2℃以内に抑えるための世界的合意（パリ協定）が 2015 年末に達成されました。このパリ協定の成立に大きく貢献された国連気候変動枠組条約国際事務局長クリスチアーヌ・フィゲレス女史が、「第 10 回 KYOTO 地球環境の殿堂」に殿堂入り者となり、先週京都に来られました。なぜこの合意のために大変な努力をされたのかと聞かれた時、彼女は「私たちの子どもたちのためです」と即座に答えたそうです。「持続可能性」の意味を端的に示したことばですね。

ただ「未来可能性」は、「持続可能性」だけでは不十分ではないか、という問題意識から出されています。現在生きている私たちが、「いい」と思ったことがそのまま、将来世代にと

っても「いい」ことなのかどうか。例えば、1960年前後、日本も世界も、「より速くより便利により快適に」ということを大部分の大人たちは信じて突っ走ってきたわけですが、その結果が、現在の地球環境の危機を招いたともいえます。したがって大切なのは、未来への変革の視点を、「持続可能性」にどう入れ込めるか、ということではないでしょうか。その時に、現在世代と将来世代の間の価値観・倫理観のあいだの相克が起り得るわけです。

ワークショップでは、「世代間倫理」のちがいをどう乗り越えられるか、哲学徒の方々から問題提起がありました。たとえば京都大学のAさんは、哲学者ハンス・ヨナスの「科学技術文明における責任の原理」を援用しながら、FDが提案する「仮想将来世代」の可能性と問題点について、議論されました。東京大学のSさんは、パリ協定という国連の政治合意文書の中で「世代間公平性」という文言が初めて使用された意義とその実現性について問題提起をされました。京大大学院のMさんは、自分と他人（他者）との関係性（あり方）を論ずるエマニュエル・レヴィナスの倫理学の観点から、やはり「仮想将来世代」の意義と問題点について、議論されました。これらの話題提供をはさんで、参加者全員が車座になったの「哲学対話」も行われました。もちろん、たった1日の会合で結論がでるような問題ではありませんが、「将来世代」の倫理や価値観を私たちはどのように考慮しているか、多くのヒントが得られました。

折から、「地球温暖化」阻止を迫る（小中学生も含む）学生デモやストライキが世界の90以上の国々で1000以上発生していると報道されています。若者（将来世代）が現世代のツケにノーを突き付けることこそ、世代間公平性へ向けた大切な一歩だと、全共闘世代³⁾の私は素直に共感しています。

<節分や鬼より怖し温暖化> 哲風

参考文献：

- 1) 西條辰義編著：フューチャー・デザイン:七世代先を見据えた社会．勁草書房 2015年 274pp
- 2) 西條辰義他：特集：フューチャー・デザイン．雑誌「学術の動向」 2018年6月号
<http://jssf86.org/doukou267.html>
- 3) 安成通信 2017/11/14 原点としての1968年 参照。